

たんぽぽ

2024年度 第

1

号

No.336

<https://jsl-tampopo.amebaownd.com/>

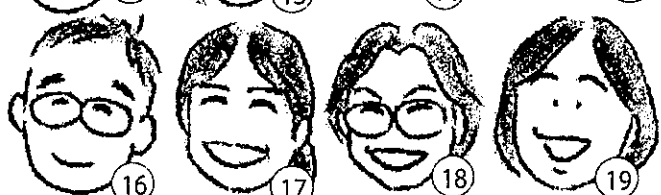
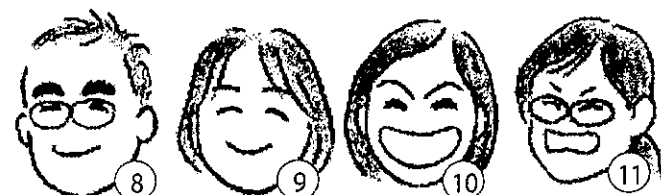
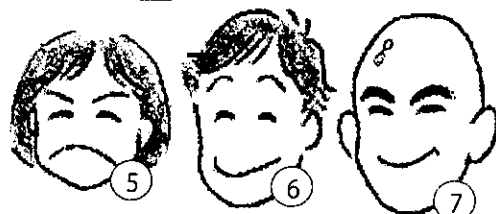
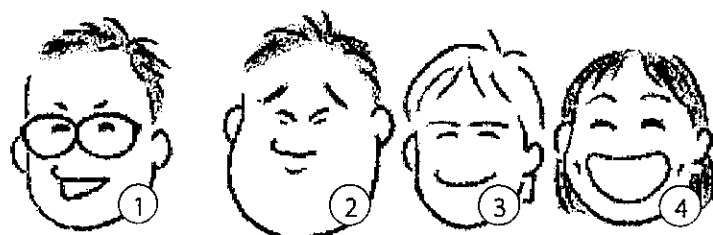
2024年度 役員紹介

手話サークルたんぽぽは、聞こえない人と聞こえる人が交流を行うサークルです。
手話だけを学ぶ場所ではありません。手話ができなくても身振り手振り、口話、筆談で『伝えよう』という気持ちがあれば、貴方の気持ちが伝わると思っています。
行事等に参加して、聞こえない人とも聞こえる人にもたくさん交流してください。
今年度は役員の数を増やしました。その理由は、当サークルも世代交代を迎えています。
たんぽぽも活動始めて半世紀。来年には創立50周年記念式典を予定しています。
若い世代にバトンタッチをしていきたいと考えていますので、
よろしくお願いいたします。

- リーダー 1 大原 和男
サブリーダー 2 秋山 孝司
3 高野 和子
4 村山 春佳
会計 5 此村 貴美子
6 斎藤 真佐美
7 根岸 慶太郎

- 事務局
8 石原 昌治 9 江田 柚希
10 大原 真由美 11 大森 紀子
12 河内 健治 13 木村 美恵子
14 坂本 七重 15 高橋 実加子
16 根岸 優 17 樋口 映子
18 森定 慶子 19 山本 多恵子
20 横田 静子 21 脇谷内 孝

監事 川口 泉
安井 典子



※顔はイメージです

学習・班活動の紹介

●学習 基礎：指文字や自己紹介など基礎的な手話を学びます。

(初心者のために入門も立ち上げます)

コミュニケーション：ろう者との手話会話ができるよう、
コミュニケーション方法を学習します。

情報保障：例会内の報告など手話通訳を経験、
サークル内の情報をより円滑に技術向上を目指します。

●班活動

国際手話班：2025年のデフリンピックに合わせて、国際手話を学んでいきます。

国語班：手話や日本語「語彙」について学びます。

カルチャー班：雑居祭りバザーなどで、手作り編み物や小物を販売できるよう、
モノづくりの趣味を広げていきます。

広報班：機関誌とホームページに加えて、
SNS媒体 (YouTube) でサークルの活動を幅広く紹介していきます。

新たに班を立ち上げることもできます。(相談会に申し出が必要)

委員会の紹介

※委員を募集しています。各担当委員にお問合せください。

たましろの郷世田谷委員会：ろう重複障害者施設の「たましろの郷」や「あゆむ会」の
支援活動を紹介していきます。

防災対策委員：聴覚障害者の防災に関する支援を行います。

参政権保障委員：選挙時に聴覚障害者の参政権に関する支援を行います。

都サ連：東京都手話サークル連絡協議会に加盟しており、
他のサークルと情報を共有していきます。

行事の実行委員

※実行委員を募集しています。各担当役員にお問合せください。

バスハイク：9月7日(土)～8日(日)群馬県川場村 1泊研修

雑居祭り：10月13日(日)梅ヶ丘羽根木公園

烏山ユニバーサルデザインスタンプラリー：10月26日(土)千歳烏山区民ホール

土の会クリスマス交流会：12月予定

サークルに常置していた『たましろ募金箱』から12,564円を
後援会に寄付しました。今後も募金をお願いします。



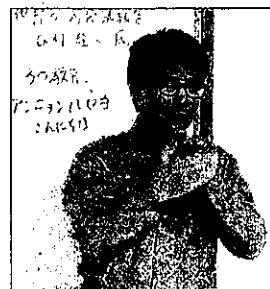
全体会

●3月5日

①地域の手話当てゲーム 岡山や大阪、関西などのユニークなご当地手話の表現の意味を当てました。やはり分かりませんでした。



②名前当てゲーム グループ対抗で「有名人」を身振り（みぶり）で解答者が当てました。古い人はともかく、最近の人は…？ 世代（せだい）違いがありました。



●3月19日

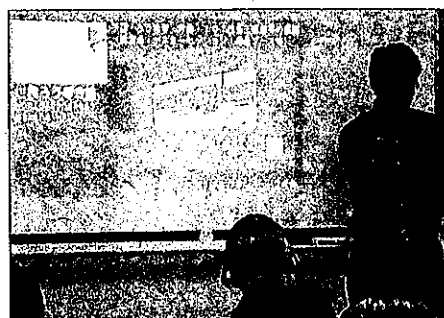
谷村さんの「世界ろう者会議」出席報告

フランスのパリ（2019年7月）、韓国（2023年7月）の済州（ソウル）
パリ大会会場での手話通訳者の立ち位置を説明してくれました。
国際手話と現地の手話が一緒に並んでいたようです。
韓国大会での参加者と交流の映像も楽しく紹介してくれました。



←国際手話もいくつか表してくれました。

Sign Language Rights for All 「全ての人に、手話の権利を」



『東京都のろう教育を考える会報告』

（担当：高田・杉石・松下）

2024年3月3日（日）、第25回東京都のろう教育を考えるフォーラムが、オンライン（ウェビナー）で開催されました。

今年度のテーマは、「ろう教育の原点に立ち返る」です。講師は、山根昭治氏（ろう教育を考える全国協議会理事長）と菅原仙子氏（東京都立葛飾ろう学校主任教諭幼稚部担当、言語聴覚士）のお二人です。

参加者は、50人でしたがスタッフ10名含んでいますので、実質40名と少なくPRの仕方にも工夫が必要だと感じました

【山根昭治氏の講演】

北海道出身、小学部から高等部まで釧路ろう学校で学ぶ。コミュニケーションの手段が手話であり、手話を自然に習得。卒業後、ろう学校寄宿舎指導員として38年間勤務し、2020年にろう教育を考える全国協議会理事長に就任。全日本ろうあ連盟青年部の協力で、ヒアリング調査を実施。地域の学校、難聴学級の実態や課題、ろう学校の実態と課題を示されました。また、SDG'sや障害者権利条約により医学モデルから社会モデルへの考え方の移行の経緯等も話されました。東京2025デフリンピックにむけた教材作成が、全日本ろうあ連盟監修で作成されたことなど、幅広くお話されました。

かつて、ろう学校教育の中での手話禁止の体罰として、生徒が正座させられている衝撃的な写真もありました。

【菅原仙子氏の講演】

テーマ「きこえない子どもたちの明るい未来のために」
聴覚口話時代の教育を振り返り、手話教育の必要性に気づかれたこと。保護者支援は、障害認識が要であることを沢山の事例をもって紹介してくださいました。自らに必要な支援を自ら周囲の人に説明し理解を得る力（セルフアドボカシー）を身に付け、アイデンティティの確立ときこえないことの肯定的理解。深く豊かなコミュニケーション体験による社会性の育成、日本語（書記言語）を習得することにより、明るい未来へとつながる期待を話されました。

『第53回耳の日記念文化祭報告』

第53回の「耳の日記念文化祭」が、2024年2月24日（土）と25日（日）の2日間で開催されました。今回のスローガンは『走り出そう！ NEW TOKYOへ！～デフスポーツの魅力・価値を知り、皆さんで“デフリンピック”を盛り上げよう！～』
スローガンが示す通り、デフリンピックを前面に打ち出した耳の日となりました。

会場は2か所で、東京都障害者福祉会館では、講演会や、トークショー、国際手話コーナー、デフリンピック関係の展示などを、みなとパーク芝浦のリーブラホールでは、デフリンピックの競技デモや体験を行いました。

2日間で延べ1,839名の来場者がありました。加盟サークルからは前日準備を含め、3日間で延べ116名の方に要員としてご協力をいただきました。また、前売り券の販売に関しましても、80枚ものご協力をいただくことができました。ありがとうございました。

コロナ禍で中止が続いていた、占いコーナーと模擬店も5年ぶりに復活しました。

初めての試みで、アンケートを実施しました。（別紙アンケート集計をご参照ください）

諸般の事情により、要員説明会の後に会場の変更が多数あり、（当日の朝にも変更があり、バタバタしました）要員の皆さまには、混乱とご迷惑をおかけしてしまいました。申し訳ございません。広い心で柔軟に対応していただいていた感謝しております。頂戴した貴重なご意見やご提案は、今後少しずつ改善していくと共に、より魅力ある、「耳の日記念文化祭」を目指して、実行委員（東連連、都サ連、東通連）の連携を更に深めていきたいと思っています。寒さに負けず、要員として、また、来場者として参加してくださった皆さま、ありがとうございました。感謝と共にご報告いたします。

（耳の日実行委員 藤井・河野・杉本）

『耳の日に参加して』

今日は、普段のサークルでは本や動画で見ていた手話が、実際に会話として用いられていたり手話で生活している方々の雰囲気や声で聞くことができました。手話はまだまだ未熟なため、今日は会話が読み取れなくて悔しく、また話したいことを話さなくてもどかしい気持ちになりました。

これからもっと精進します！

また手話に関するイベントに参加したいです。

ありがとうございました。

(日本大学手話サークル PEACE)

本日は貴重な経験をありがとうございました。

緊張ばかりであったという間の日でしたが、多くの方の暖かいサポートの元、様々な体験をすることができ、自分にとってのステップアップになるとともに、より手話に触れたいと感じる一日となりました。

お疲れ様でした。これからもよろしくお願いいたします！

(日本女子大学手話サークル Hand in Hand)

先日はありがとうございました。

ボランティアに参加するのが初めてだったのでどんな感じなんだろうと期待半分不安半分でしたが、多様な取り組みを目にすることが出来てとても貴重な経験になりました。何より、都サ達の皆様とお話させていただくことでサークルに持ち帰れるものが多かったように感じます。今後の活動に還元させていただければと思います。都サ達研修を始め、機会がございましたらお呼びいただけると幸いです。

(早稲田大学手話さあくる)

東京都内の話ではないのですが、3月20日(祝)に横浜で開催された『デフリンピックフェスティバル in かながわ』(13:00~16:00)に参加してきました。

内容は(聴・ろう)アスリートによるトークショーだったりミニ手話講座だったりと特に変わったものではなかったのですが会場が「横浜そごう」入口前の広場(新都市プラザというらしい)だったことに驚かされました。横浜に行ったことのある方ならおわかりと思いますが、JR横浜駅改札を出て東口へ向かいポルタという地下街を抜けて開けた先に広場があり、この広場でデフリンピックフェスティバルが開催されていたのです。(正確には「そごう」の正面ではなくスカイビル側の通路にブースが3つありました。)人通りは、ショッピングで「そごう」やスカイビルに向かう人々、はたまた横浜観光の人々でごった返し、トーク

ショーでは通れなくなるほど人が押し寄せ、神奈川県職員と思われる方々が交通整理をするほどでした。

昨年、東聴連が主催した東・西・南。北のデフリンピックムーブメントや各市区のろう協主催のデフリンピック関連イベントは「みんなのデフリンピック」の上映もあり、どちらかというとデフリンピックや手話を知っている人を対象にしていたように思います。

これに対し『デフリンピックフェスティバル in かながわ』はデフリンピックや手話知らない一般聴者に対して、しかも意表を突く形でデフリンピックやデフスポーツをアピールしていました。

足を止める人は、ドラマの影響か女性が多く中高生のグループでは手話という言葉が飛び交い、ある家族ではお母さんが子供に「デフリンピックって聴こえない人のスポーツ大会だよ」と説明していたのが印象的でした。

確かに一般聴者にデフリンピックや手話を知ってもらう試みとしてイベントを一回やっただけでは無理ですし効率が悪いのは十分わかりますが、デフリンピックの機運醸成には一役買うのではないかと思います。特にデフリンピックの競技会場のある地域では町ぐるみで盛り上がっている感じは十分伝わっているのではないのでしょうか。

よく実際にデフリンピックを見に行った方からデフリンピックは「派手さはないが手作り感がある」という言葉を聞くのですが 2025 東京デフリンピックは、今のところ手作り感というより東京都による IT を駆使した「スマート感」が顕著かなと思います。話した言葉が文字に変換されるアプリや CG 手話通訳などなど。

このままでは東京オリンピックを経験した東京都により 2025 東京デフリンピックもつつがなくスムーズに運営が行われる代わりに私たちの記憶に残らない大会になってしまうのかそれが心配です。

せっかく日本で初めて「聴こえない人々のスポーツ世界大会」デフリンピックが開催されるのに、聴覚障害に対する理解は深まっていなければ 4 月からの合理的配慮の義務化に至っては障害者優遇だとの声さえ聞かれます。そんな中デフリンピックの開催日だけは確実に近づいています。デフリンピックが終わったら何が残るのか？デフスポーツへの理解は深まっているのだろうか？心配をしたらきりがありません。

おそらくいや間違いなく東京でデフリンピックが開催されるのは私の人生で 2025 年が最初で最後だと思います。これからでも何ができるか、もちろん私も考えますが加盟サークルのみならずとも一緒に考え、一緒に行動していただければ幸いです。

(藤井 学)

全体会

●4月2日 オノマトペで遊ぼう！

擬音語(ニャーニャー、ドンドンなど)と擬態語(キラキラ、シーンなど)の音の表現を身振りで、グループ対抗で答えました。意外と難しい、と言うより、みんなの動作が面白いやら怖いやら...



●5月7日 ①手話の語源を学ぼう

手話の語源を寸劇で発表しました。「間に合わない」「すごい」「サボる」など。



怪談 顔が腫れた「お岩さん」主人に切られ「ぎゃ〜！」

イラストを選んで「手話の語源」を寸劇で説明表現しました。

②創作手話を考えよう

「ヤブ医者」→下手+医者、「アドリブ」→気づく+加える
それぞれ手話表現を考えてみました。



2024年度第1回講演会 (4月30日しゃれなあど)

「シニア世代でも こころ愉しく」

井上亮一氏

井上亮一設計事務所 自営

筑波技術短期大学元教授 (耐震設計、構造計画を専門)

筑波大学附属聾学校同窓会顧問

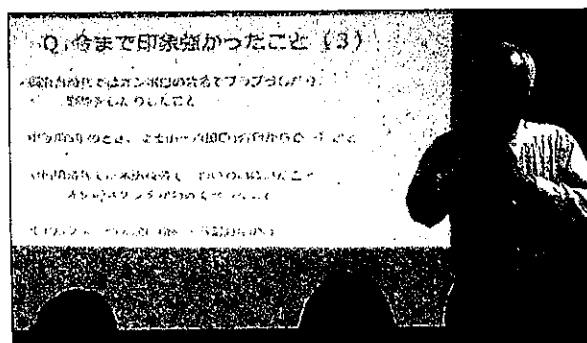
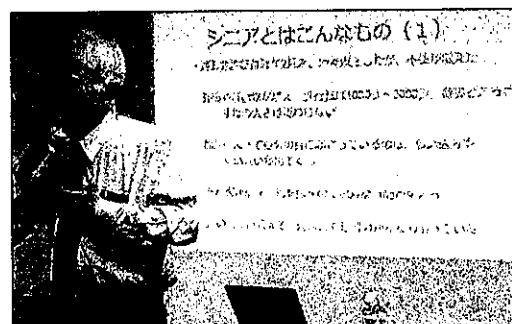
今年1月に御年**93歳**になられました。講演のはじめは出席者に体力のことを聞かれましたが、お元気でいらっしゃいます。友人がいなくなり寂しくなれたそうですが、運転免許証の返上、買い物などでたくさん歩いているとのこと。外出によって気力、体力に加え、脳の活動も活発になるよう気を遣われています。

70代に入ると体の変調「老化」は避けられない。でも「周りの人に上手に頼って生きる」ような楽しい人になってほしい。また独り身でも新しい“恋”を見つけることも良いのでは？

上高地の思い出や、戦時中のアメリカ軍の爆撃、サツマイモや卵の買い出しなどの貴重なお話。お仕事の建築関係では手話通訳の秘書と一緒に営業したこと。

筑波技術短期大学 (設計) で、初めてろう者として教壇に立った時、建築現場の大切さを説かれました。

現在は料理作り、洗濯・掃除、英語やドイツ語、フランス語の復習と「まだまだ人生楽しめる」と気力を持たれています。やっぱりまだまだお元気です！



今後の予定 ※予定は都合により変更になることがあります

●6月

4	火	例会：全体会	21日(金) 相談会
11	火	例会：学習	
18	火	例会：班活動	
25	火	例会：学習	

●7月

2	火	例会：全体会 スワン・ヴィーナス	19日(金) 相談会
9	火	例会：学習 スワン・ヴィーナス	
16	火	例会：班活動	
23	火	例会：学習	
30	火	例会：講演会 しゃれなあどオリオン	

・活動時間 19:00～21:00

※7月2日9日の例会場はしゃれなあどのスワン・ヴィーナス(6F)

30日はしゃれなあどのオリオン(5F)

編集後記

新年度が始まりました！

新しいメンバーをどんどん迎え入れるためにも、役員も増えて対応します。
“たんぽぽ”らしく元気に活動していきましょう!!

